



バッハの森通信

第120号
2013年
7月20日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail : info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

天を見上げる 昔の人たちの知恵

記録的な猛暑の夏、皆様はいかがお過ごしですか。バッハの森の周辺は、最近、急速に宅地化されてきましたが、それでもまだまだ水田や麦畑が広がり、平地林が点在する緑豊かなところ。そこで、日が照りつける昼間は家に籠もってじっとしていますが、日没直前、夕方の6時過ぎになると、麦茶をいれたペットボトルを片手に、ウォーキングに出かけるのが、この夏の私の日課です。平均すると、毎日約60分、6キロほど歩きます。

歩きながら、もっぱら空を見上げています。特に夕日を受けて深紅、ピンク、紫、グレー、白と、微妙なグラデーションを伴って刻々と色を変えていく雲の美しさに、しばしば見とれます。それに、雲はいろいろな形に変わります。面白いことに、時々、カッと口を開けたガーゴイル（怪獣の姿をした雨樋）に見える雲があります。ご存知でしょう。ノートルダム寺院の屋根にいるのが有名です。ガーゴイルは、こういう雲を見た昔の人の想像から生じた天の怪獣なのではないでしょうか。

* * *

ガーゴイルの起源を調べたことはありませんが、昔の人たちが雲の上に、地上とは別の世界が広がっていると考えていたことは事実です。彼らはその世界を「天」と呼びました。中世、近世のヨーロッパの宗教画で、雲の上にいる、王冠をかぶった髭の生えた老人を見かけることがあります。この老人は天の王、すなわち、父なる神を表しています。

恐らく昔の人たちには、雲間から真っ直ぐ射してくる光が、天の王の栄光に見えたのでしょう。ヘブライの詩人が歌いました。

もろもろの天は神の栄光を語り
蒼穹はみ手の業（わざ）を告げる。

しかし私は現代人ですから、残照に映える雲がどれほど「神秘的」な色彩をしても、結局、雲の上には無限に広がる宇宙空間があるとしか考えられません。ただその宇宙なるものが、何千光年、何万光年の広がりを持つ空間だと説明されると、実際の距離感は見当もつかないのに、大宇宙の中に置かれた人間が、余りにも小さな存在だということは分かるような気がします。

それに、この宇宙は130億年とか140億年前に起きたビッグバンで始まり、その中に46億年前に生成された天体が地球だそうですが、これまた、精々100年位しか生きない人間の命が余りにも短いことを教えてくれる年数です。と同時に、今、自分が生きている1年が、140億分の1とか46億分の1という奇跡なのだと思えてくるのは「真夏の夜の夢想」でしょうか。

* * *

昔の人たちは、しきりに「天」を見上げていました。「地上」では解決できない、と思うことが沢山あったからです。ナザレのイエスが教えた祈りはその典型です。

「天」にいます私たちの父よ、
.....

御意志（ミコトノコト）が実現しますように、
「天」におけるように「地上」でも。

それにひきかえ、宇宙の年齢まで計算してしまった私たちは、ほとんど「天」を見上げなくなりました。それどころか、「天」の見上げ方すら忘れてしまいました。しかし、本当は「地上」の知恵だけでは解決できない難問、それも人類の生死に関わる難問が山積されていることに、気づき始めていることも事実です。

聖書を読み、バッハを歌う、バッハの森の活動は、昔の人たちがどのようにして「天」を見上げていたかを学ぶ、ささやかな試みです。難しく聞こえるかもしれませんが、それは昔の民衆が皆、知っていた文化です。それに、一旦、はまると無限に広がる宇宙のように、果てしなく面白い活動なのです。皆様のご参加をお待ちしております。（石田友雄）

神の王国で生きるための 新たな命

*このメディタツィオは、去る6月30日にバツハの森の「教会音楽コンサート」で朗読されました。

本日のコンサートのテーマは、「バプテスマ」、或いは「洗礼」と呼ばれる教会の儀式です。このテーマを16世紀の宗教改革者マルティン・ルターが作詞したコラール、「主は来たる、ヨルダンへ」を皆様と一緒に歌い、バツハが作曲したカンタータを通して学びます。

神道のみそぎのように、水で身体を洗い清める儀式は、世界各地の宗教文化に共通しています。今は誰でも、宗教とは無関係に衛生的見地から、手を洗い、うがいをしますから、意味が分かり易い儀式と言えるでしょう。ただし、水で身体を洗い清める儀式、すなわち、「洗礼」を入信儀礼にしたのは、初代教会を組織したイエスの弟子たちでした。

ときに誤解されていますが、ナザレのイエスは、決してキリスト教の教祖ではありません。彼はユダヤ人として生まれ、ユダヤ人の習慣に従って埋葬されたと、福音書は伝えます。ですから、奇妙に聞こえるかもしれませんが、イエスはキリスト教徒ではありません。キリスト教という宗教もキリスト教会という宗教団体も、すべてはイエスの弟子たちが始めたことです。ただし、その始まりは、彼らがナザレのイエスから受けた強烈なインスピレーションでした。その経験を、もちろん、生前のイエスの姿から受けたのですが、そのインスピレーションの意味が本当に分かったのは、彼らの言葉によれば、「復活したイエスに出会った」ときでした。

メシアは犠牲の小羊

ここで再び一言断っておく必要があります。今から2000年前に、ナザレのイエスと彼の弟子たちは、突然歴史に登場したわけではありません。彼らは、アブラハム以来、それまでに約1800年におよぶ古代イスラエル独特の宗教文化の継承を強く意識している人たちでした。ですから、彼らは、自分たちの思想と行動を、古代イスラエルの歴史と文化を集めた書物、すなわち「旧約聖書」を拠り所として語りました。これは私たち日本人には全く異文化の世界ですから、理解するためには、少々学ばなければなりません。

例えば、復活したイエスに出会った弟子たちは、「彼はメシアだ」と悟りました。メシアは、本来、紀元前1000年頃活躍したダビデ王の子孫から現れて民族を救う英雄でしたが、苦難に満ちた長い年月の間

に、そのイメージは複雑に変遷し、人々の苦しみを代わって背負う神の僕(シバ)になりました。

さらに、十字架で処刑されたイエスは、「過ぎ越しの小羊」のように、犠牲になって人々の命を救ったのだ、と説明されました。ユダヤ人の先祖が、紀元前13世紀にエジプトを脱出したとき、犠牲になって幼い子どもたちの命を救った小羊のことです。後にこの説明には神学的解釈が加えられ、「世の罪を負う神の小羊」という礼拝式文になりましたが、イエスの弟子たちは、本来、もっと単純に具体的な状況を考えていたと思われます。すなわち、病気の人、悲しむ人、貧しい人など、困っている人、誰にでも救いの手を差し伸べたイエスのもとに、助けを求めて大勢の民衆が集まりました。それが、支配階級の嫉妬と不安を引き起こし、結局、世の中の秩序を乱した罪により、イエスは十字架にかけられて処刑されました。彼は苦しむ民衆を助けるため犠牲になった、と弟子たちは考えたのです。

神の王国の実現

ナザレのイエスの活動目標は、「天の王国」乃至は「神の王国」を地上に建設することでした。イエスは30歳になったとき、故郷のナザレを去り、洗礼者ヨハネから洗礼を受けた後、各地を回って民衆に「神の王国は近づいた」と語り始めました。いわゆる「主の祈り」では、天の父に向かって、「あなたの王国が来ますように。あなたの御意志(ミコロ)が行われますように、天におけるように、地上にも」と祈ることを教えました。同様に「天の王国は次のようにたとえられる」と語り出す多くの譬え話で、神の王国を説明しました。当然、一言では語れない深い意味が籠められた思想ですが、あえて単純化すると、イエスが実現を目指した「神の王国」は、天の王である神の正義が100パーセント実現し、憐れみ深い神の助けを受けて、弱い者を含むすべての人たちが皆、幸福に暮らせるようになるころでした。それは、この世で流行る強い者勝ち、弱肉強食の原理を逆転した発想でした。イエスが病気に苦しむ人々を癒したことを伝える多くの奇跡物語は、神の王国が地上に実現した様子を語っているのです。

教会の入信儀礼

復活したイエスに出会った弟子たちは、「神の王国」の実現を目指して十字架につけられたナザレのイエスは、人々が長い間待ち望んできたメシアであると悟りました。そして、ヘブライ語の「メシア」を、当時の世界共通語であったギリシャ語によって「キリスト」と呼び、ヘレニズム・ローマ世界に向かって、キリストは神の憐れみを世界に伝えるためこの世に

現れた神の独り子だ、という信仰、すなわち、「福音」の伝道を始めました。こうして新しい宗教としてキリスト教が始まったのです。

その結果、キリスト教会が組織されると、同時に教会に入会する儀式として「洗礼式」が定められました。その際に、「洗礼」はキリストが定めた入信儀礼だと説明されました。イエスの精神の継承という意味で決して間違っていないが、歴史的には無理な説明です。イエス自身が誰にも洗礼を授けなかった事実と矛盾するからです。すでに述べたとおり、イエスには、新しい宗教団体を組織する意図はありませんでした。従って、入信儀礼をする必要もなかったのです。

旧約聖書の律法に、祭儀的な汚れを水で洗う定めはありますが、「洗礼」はありません。ですから、イエスの弟子たちが入信儀礼に定めた洗礼のルーツは、イエスが公的活動を開始する直前に、洗礼者のヨハネから洗礼を受けたことでした。その頃、洗礼者のヨハネは有名人でした。当時著作された歴史書に、彼の活動は詳しく報告されていますが、イエスに関する記録は何もありません。ヨハネは、ユダヤの荒野のヨルダン川沿いの地方に突然現われて、「差し迫った神の怒りを免れるために、お前たちは悔い改めて洗礼を受けよ」と叫んだ人です。彼の叫びに共感した大勢の人々が全国から集まって来て、洗礼を受けました。イエスもその一人でしたが、すぐヨハネの運動と自分が目指す「神の王国」の建設の違いを知り、ヨハネと別れて独自の活動を始めました。

洗礼と聖霊

その後、ヨハネはヘロデ・アンティパス王を批判したため逮捕され、殺害されましたが、彼の弟子たちは、ヨハネの悔い改めの洗礼運動を続けました。やがてイエスも十字架で処刑されると、イエスの弟子たちが福音の伝道を始めキリスト教会を組織し、その入信儀礼として洗礼を定めたことは、すでに述べたとおりです。このため、しばらくの間、洗礼者ヨハネの洗礼と、イエス・キリストの弟子たちがキリストの名によって授ける洗礼が錯綜して混乱が起きました。このとき、伝道者の一人であった使徒パウロは、イエス・キリストの名によって洗礼を受ける人には、必ず聖霊が降ると説明して、違いを教えました。この場合、聖霊とは、神の王国建設を目指したイエスの思いを指します。

洗礼はイエスの思いを継承して、神の王国の建設に参加することだという説明を、一つのエピソードによって、ヨハネによる福音書が伝えます。それによると、イエスの隠れ支持者だったユダヤ人の議員ニコデモが、夜密かにイエスを訪ねて来ました。イ

エスが、「人は、新たに生まれなければ、神の王国を見ることはできない」と告げると、ニコデモは「年をとった者が、どうしてもう一度生まれることができましょう。もう一度母親の胎内に入って生まれるわけにはいきません」と答えました。するとイエスは「こんなことが分からないのか。誰でも水と霊とによって生まれなければ、神の王国に入ることはできないのだ」と教えました。ここでイエスの教えとして伝えられている「水と霊とによって生まれなければ」という言葉は、明らかに「洗礼」を意味しています。従って、これは、教会を組織して洗礼を入信儀礼に定めた弟子たちが、後でイエスの言葉に挿入した言葉だと考えられます。

ただし、挿入といっても、決して恣意的に書き加えた言葉ではありません。むしろ、洗礼とは、神の王国に入るために新しく生まれることなのだ、それがイエスの精神を伝えるための儀式であることを正しく教える説明になっています。実際、パウロも「私たちは洗礼によってキリストと共に葬られるが、キリストが復活させられたように、新しい命に生きる」と説明しました。このように、初代教会において、洗礼は、イエスが目指した「神の王国」で生きるための新しい命を得る儀礼だという信仰が確立していました。教会はこの信仰を後代に伝え、それを継承したルターやバハが、洗礼によって与えられる新しい命にインスピレーションを受け、感動して活動したことは明らかです。

「新しい命」に生きる喜び

それにもかかわらず、福音書が伝えるイエスの言葉から、「水と霊とによって生まれなければ」、すなわち、「洗礼を受けなければ」という弟子たちの挿入を敢えて外してみると、「人は、新たに生まれなければ、神の王国を見ることはできない」という、本来のイエスの言葉がより鮮明に聞こえてこないでしょうか。それは、復活したイエスに出会った、という弟子たちの経験を、自分で確かめてみることであり、更に、十字架で処刑された人が、文字通り命をかけて実現しようとした「神の王国」と、直接向き合う試みだからです。

イエスの十字架から2000年たっても、「神の王国」が地上に実現しなかったことは事実です。しかし、同時に、本気で「神の王国」を地上に建設しようとした人の熱意が、人々にインスピレーションを与え続けてきたことも事実です。ですから、ニコデモが理解できなかった「新しい命」に生きる喜びを知れば、私たちにも、「神の王国」が見えてくるのではないのでしょうか。(石田友雄)

特別会計報告(3)

バツハの森の会計は、会員の年会費や各プログラムの会費などを収入源とする「一般会計」と、寄付を収入源とする「特別会計」の二本立てになっています。光熱暖房費やコピー機のリース代などの運営費が「一般会計」から支出され、2012年度の収支総額は約670万円でした。この決算報告は、『バツハの森通信』本号の5頁に掲載されています。

毎年1回『バツハの森通信』7月号で公表する年度報告で「特別会計」の収支報告もしてきましたが、この会計の性質上、支出の詳しい説明は数年纏めた方が分かり易いので、しばらく控えてきました(例えば、地上権更新の支払いは20年おきです)。しかし『バツハの森通信』第92号(2006年7月20日)で第2回報告をして以来6年の歳月が流れ、大きな動きもありましたので、この6年間の収支を報告し、この会計からの支出予定についても説明いたします。

地上権積立会計

2007年度より2012年度までの6年間に地上権積立寄付は65万円ありました。それに繰越の26万円と利息約2万円を足し、この間の支出がなかったため、残高は93万円となります。この積立会計は、次期地上権更新の2024年までに144万円、2026年までに100万円を必要としています。

建物維持会計(オルガン修復を含む)

この6年間の建物維持積立寄付は、オルガン修復募金約327万円を含めて約845万に上りました。それに、繰越の151万円、一般会計からの繰入542万円、利息など34万円を足すと、収入合計は1572万円となりました。

他方、2006年と2007年に石田友雄理事長から借入した1567万円の返済残額が1243万円ありましたが、710万円返済しましたので、返済すべき残額はあと533万円になりました。

この6年間のその他の大きな支出としては、2010年度と2012年度に建物塗装(奏楽堂と資料館)のための454万円、2011年度にオルガン修復を含む356万円がありました。従って残高は52万円となっています。

今後の支出予定

建物に関しては、今後も定期的に塗装・補修を行う必要があります。今年は、ゲストハウス外壁塗装に約80万円かかり、また設備補修にも、毎年少なくとも数十万円の費用が必要になってくると思われます。

さらにオルガンに関しては、2014年に予定されて

いる耐震工事を含む修復工事完成のため、200万円(為替相場により変動)必要なことが分かっています。

地上権積立会計(2007年度～2012年度)

収入の部	単位千円	支出の部	
繰越	260	支出	0
寄付	650	繰越	930
利息	20	計	930
計	930		

建物維持会計(2007年度～2012年度)

収入の部	単位千円	支出の部	
繰越	1,510	建物補修	4,540
寄付	8,450	オルガン修復	3,560
一般会計から	5,420	借入返済	7,100
利息など	340	繰越	520
計	15,720	計	15,720

(戸部慶子)

* * *

2012年度・統計

集会回数・参加者延べ人数
(2012.4.1～2013.3.31)

学習コース	回数	延人数
クワイア (混声合唱)	33	421
ハンドベル・クワイア	30	164
ハンドベル・リンガーズ	20	57
コラール研究会	16	98
オルガン音楽研究会	14	97
クラヴィコード・ オルガン教室	13	50
オルガン・クラブ	9	34
入門講座：聖書を読む	27	133
レチタティーヴォを歌う	18	89
クリスマス祝会	1	24
小計	181	1167

公開プログラム	回数	延人数
コラール・カンタータ研究	13	170
コラールとカンタータ	16	204
コンサート	3	157
ワークショップ	2 (4日)	71
子どもクリスマス	1	52
音楽会 (夏休み、春休み)	2	55
小計	37	709

運営活動	回数	延人数
運営委員会	34	134
理事会・評議員会	3	24
大掃除	1	8
準備会	1	7
オルガン調整	4	8
打ち合わせ	4	12
小計	47	293

その他	回数	延人数
見学	1	4
来訪	15	34
小計	16	38

総計 281回 2207人

入退会者数 (2012年度)

	入会	退会	増減
維持会員	9	12	-3
賛助会員	0	1	-1
計	9	13	-4

会員数 (2013.3.31現在)

維持会員	85人
賛助会員	48人
計	133人

会計報告 (2012年度)

単位：千円

全体 (指定寄付金を除く)

収入の部	支出の部
前期繰越 624	事業費 4,095
財産利息 2	管理費 1,891
維持・賛助会費 915	次期繰越 741
寄付 402	計 6,727
事業収入 3,582	
雑収入 1,202	
計 6,727	

指定寄付金 (建物維持) 増減

収入の部	支出の部
前期繰越 1,651	建物補修 1,654
寄付 635	繰越差額 105
利息 1	次期繰越 528
計 2,287	計 2,287

指定寄付金 (地上権更新) 増減

収入の部	支出の部
前期繰越 930	次期繰越 931
利息 1	計 931
計 931	

借入金 (2013.3.31 現在)

長期借入金	34,000
短期借入金 (建物維持)	5,330
短期借入金 (その他)	1,000

* * *

有志懇談会

7月13日(土)午後、「バッハの森の運営に関する有志懇談会」が開かれました。猛暑の昼下がりでしたが、20人の皆さんが集まり、建設的な話し合いができました。先ず、最近10年間に会員数が213名から133名に減少、年平均8名減の状況がこのまま続けば、17年後に会員は零になる、というショッキングな報告がありました。しかし、同時に、年10名前後の新入会員があり、創立以来の会員と共に、現在バッハの森を支えている人たちが、強固な固定会員であることも確認されました。それにしても、この10年間に、合唱や研究会など、各活動の参加者数が大幅に減少したことは事実なので、その原因を究明することと、急速に変化する社会状況に対応して、新しいプログラムを考える必要性が指摘されました。他にオルガンの修復問題、赤字の収支のバランスの立て直しなどが討議され、最後に“Magnificat”を輪唱して散会しました。(石田友雄)

日誌 (2013. 4. 1 - 7.13)

4. 1 法人名変更 財団法人筑波バッハの森文化財団を一般財団法人バッハの森に変更。
4. 4, 11, 18 運営委員会 参加者 3名、4名、4名。
4. 11 掲載 『常陽ウィークリー』1面にバッハの森の紹介記事が掲載された。
4. 12 開講 初夏のシーズン
5. 3～5 ワークショップ 参加者 14名、16名、14名。
5. 5 オルガン・コンサート 宮本とも子氏。参加者 20名。
5. 7 放送 茨城放送「スクーピーレポート」11:02分～10分。報道記者：谷田部昌子氏、藤井友香氏。オルガン：宮本とも子氏、説明：石田友雄氏。
5. 9, 23, 30 運営委員会 参加者各 4名。
5. 16 事務打ち合わせ 神谷隆行氏 (TOMA コンサルタント)。決算業務報告。バッハの森より 2名。
6. 6, 13, 20, 27 運営委員会 参加者各 4名。
6. 15 一般財団法人バッハの森理事会 出席者 6名。
6. 22 一般財団法人バッハの森評議員会 出席者 8名。
6. 25 来訪 反町瑞希氏、赤羽愛美氏 (メテオリレイサービス)。
6. 30 バッハの森コンサート 参加者 43名。
7. 1 夏期休館：7月1～9月11日。
7. 4, 11 運営委員会 参加者各 4名。
7. 13 有志懇談会 テーマ：バッハの森の運営について。参加者 20名。

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ コラール・カンタータ研究 コラールとカンタータ (JSB)

4. 13 クワズィモドジェニティのためのカンタータ「しかし同じ週日の夕方に」(BWV 48)；コラール「ひるむことなかれ、いと小さき群れよ」。オルガン：J. S. バッハ「み恵みにより私たちに平和を与えてください」(BWV 48 / 7)、安西文子。参加者 9名。
4. 20 第 354 回、オルガン：D. ブクステフーデ「われに來たれと、神の子、語りたもう」、安西文子。参加者 15名。
4. 27 昇天祭のためのカンタータ「み神は、歓呼とともに昇って行かれる」(BWV 43)；コラール「命の君なるイエス・キリストよ」。オルガン：J. S. バッハ「あなた、命の君、主イエス・キリストよ」(BWV 43 / 11)、笠間きよ子。参加者 9名。
5. 11 第 355 回、オルガン「あなた、命の君、主イエス・キリストよ」(BWV 43 / 11)。笠間きよ子。参加者 14名。
5. 18 聖霊降臨祭第 3 祝日のためのカンタータ「彼はその羊を名前と呼び」(BWV 175)；コラール「み神の聖霊よ、わが慰め主」。オルガン：J. S. バッハ「ですから、気高い霊よ、私はあなたに従って行きます」(BWV 175 / 7)、金谷尚美。参加者 8名。
5. 25 第 356 回、オルガン：J. S. バッハ「来てください、聖霊よ、神なる主よ」(BWV 651)、金谷尚美。参加者 13名。

6. 1 三位一体祭のためのカンタータ「おお、聖なる霊浴、水浴よ」(BWV 165)；コラール「主なるみ神に感謝を捧げよ」。オルガン：J. S. バッハ「彼のみ言葉と彼の洗礼と彼の晩餐は」(BWV 165 / 6)、當眞容子。参加者 12名。
6. 8 第 357 回、オルガン：F. W. ツァハウ「さあ、主なる神に感謝を捧げよう」、當眞容子。参加者 9名。
6. 15 三位一体後第 1 主日のためのカンタータ「飢えた者にお前のパンを裂き与えよ」(BWV 39)；コラール「来たり、主に学べ」。オルガン：J. S. バッハ「幸いである、憐れみから他人の苦難を引き受け」、海東俊恵。参加者 14名。
6. 22 第 358 回、オルガン：G. ベーム「大いに喜べ、わが魂よ」、海東俊恵。参加者 13名。

学習コース

- バッハの森・クワイア (混声合唱) 4.13 / 14名、4.20 / 15名、4.27 / 9名、5.11 / 14名、5.18 / 8名、5.25 / 15名、6.1 / 14名、6.8 / 13名、6.15 / 16名、6.22 / 13名、6.29 (ゲネプロ) / 17名。
- バッハの森・ハンドベル・クワイア 4.13 / 4名、4.20 / 3名、4.27 / 3名、5.11 / 3名、5.18 / 3名、5.25 / 3名、6.1 / 4名、6.8 / 3名、6.15 / 4名、6.22 / 4名。
- コラール研究会 4.12 / 7名、5.17 / 6名、5.31 / 6名、6.14 / 8名。
- オルガン音楽研究会 4.19 / 8名、5.24 / 8名、5.31 / 7名、6.14 / 8名、6.21 / 8名。
- クラヴィコード・オルガン教室 4.19 / 4名、4.26 / 4名、5.24 / 5名、5.31 / 3名、6.14 / 3名、6.21 / 4名。
- オルガン・クラブ 4.12 / 3名、5.10 / 3名、5.17 / 2名、6.7 / 3名。
- 入門講座：聖書を読む 4.13 / 7名、4.20 / 8名、4.27 / 8名、5.11 / 6名、5.18 / 3名、5.25 / 6名、6.1 / 9名、6.8 / 3名、6.15 / 8名、6.22 / 5名。
- オルガン、クラヴィコード練習 4.4 / 2名、4.5 / 1名、4.9 / 3名、4.11 / 2名、4.12 / 2名、4.17 / 3名、4.18 / 3名、4.19 / 2名、4.20 / 2名、4.23 / 2名、4.24 / 1名、4.25 / 1名、4.26 / 2名、4.27 / 2名、4.30 / 2名、5.1 / 1名、5.2 / 1名、5.3 / 3名、5.4 / 2名、5.5 / 1名、5.6 / 1名、5.7 / 1名、5.8 / 1名、5.9 / 2名、5.10 / 3名、5.11 / 2名、5.15 / 3名、5.16 / 2名、5.18 / 2名、5.21 / 2名、5.22 / 3名、5.23 / 3名、5.24 / 1名、5.25 / 2名、5.28 / 2名、5.29 / 2名、5.30 / 1名、5.31 / 1名、6.1 / 2名、6.4 / 3名、6.5 / 1名、6.6 / 2名、6.7 / 4名、6.8 / 2名、6.11 / 2名、6.12 / 4名、6.13 / 3名、6.14 / 2名、6.15 / 2名、6.18 / 4名、6.19 / 3名、6.20 / 3名、6.21 / 2名、6.22 / 1名、6.25 / 3名、6.28 / 1名、6.29 / 1名、7.2 / 2名、7.2 / 2名、7.3 / 1名、7.4 / 1名、7.5 / 1名、7.9 / 1名、7.10 / 1名、7.11 / 1名、7.12 / 1名。